

製造品價額	職工			數				製造戶數
	計	女	男	其他	錦 竈	竈		
						間數	筋	
圓								

一製造戶數及竈數ハ其年十二月末日現在ヲ記入シ職工ハ平常使用スル數(一日分ノ)ヲ記入スヘシ
 一實用品何分裝飾品何分又ハ何々ノ類何分ト記シ一ケ年業務ノ概況ヲ備考トシテ記載スヘシ

第二十五號 工產物雜類 明治何年 何都市町村

油					數量	價額	戶製 數造	職		備考
其他	綿 實 油	荏 油	胡 麻 油	菜 種 油				石	圓	

博 多 人 形	草 烟		傘	土 管	煉 瓦	瓦	器 計
	計	卷 刻					
1	1	本 斤	本	1	1	1	1

農 具	鐵		青 銅 器 銅 器	籃 胎 漆 器	漆 器	麥 稈 真 田	類	
	及 物	鑄 物					計	其 他
1	1	1	1	1	1	束	1	1

材	木	松尺メ二間一本 杉尺メ三間全 杉六分板一坪 杉四分板全
水油		一石
石油		一箱(二匳)
石炭		一噸
薪		十貫目
炭		全
美濃紙		一束(十帖)
半紙		全(全)
肥料	乾鰯	十貫目
	搾滓 鰯	全
油粕	菜種	全
	豆種	全

錫	一貫目
生蠟	全
樟腦	百斤
檀實	百斤
備考	

一本表ハ博多、久留米、門司ノ三ヶ所ニ於テ調査スルモノトス
 一商品ハ各其同種ノ内取引重ナル種類ニ依リ相場ヲ定メ置其名稱(譬ハ米ナレハ筑前米筑後米等
 鏝節ナレハ平戸節トカ薩摩節トカ)ヲ註記シ其相場ヲ取ルヘシ若其後前ニ定タル立物ナキトキ
 ハ成ヘク同品格ノ物ノ相場ヲ取ルヘシ
 一立物ノ内米酒生絲ノ三種ハ上中下ノ三等ニ區別シ其他ハ都テ中等即チ並品ノ見通卸相場ヲ取ル
 一斤量ヲ用ユル者ハ十六貫目ヲ以テ百斤トスベシ

第三十三号 商業會議所 明治何年 郡市町村名

資本金		拂込資本金	積立金 (自創業至 何年度末)	興業費 (自創業至 何年度末)	收入			
合計	何々				各戸点火料	街燈点火料	前期繰越金	
金		引			差		金	
合計	何々	後期繰越金	役員賞與金	積立金	割賦金	合計		

株數	株主人員	支局數	本局數	第三十七號		合計	檢出所名及 輸出先地名
				何々電燈 合資會社 合名	株式 合資會社 一		
出支				明治何年度			
何々	諸給料	發電所 消耗費	消費石炭代	何郡市町村		合計	其他各地 合計

一本表會計年度ハ其會社ノ定メタル年度ニ依ル次表モ之ニ全シ
 一合名合資會社ニテハ株主ノ欄ヲ出資社員ト改ムヘシ
 一本局數ヨリ積立金ニ至ル七項ハ年末(年度)ノ現數ヲ掲クヘシ
 一積立金ノ欄内ニハ創業ヨリ其年度末迄合算シタル總額ヲ掲ケ差引益金ノ欄ニアル積立金ニハ其年度間ノ積立金ノミヲ掲クヘシ
 一興業費ハ創業以來ノ總額ヲ記入スヘシ但シ全費中ニ消却セシ金額アラハ表尾ニ其金額ヲ明記スヘシ
 一收入及支出金ハ其年度間(一ケ年)ノ總額ヲ掲クヘシ

第三十八号

何々電燈會社ノ二

明治何年度

何郡市町村

市 郡	線路長	線條長	街燈基數	各 戶 所 用		
				戶 數	燈 數	点 火 料
	里丁間	里丁間				

總 計

一表中点火料ハ一年又ハ一年度間ノ總數ヲ記シ其他ハ年末又ハ年度末ノ現數ヲ記スヘシ
 消費石炭數量(一年又ハ一年度間)

第三十九号

何々生命保險株式會社ノ一

明治何年

何郡市町村

本支店及代理店數	取 次 所	株 主 人 員	株 數	資 本 金	拂込資本金	支 出 金					
						本支店及代理店費	拂渡保險金	滿期教育資金	保險料拂戻高	何 々	

第四十二号		何々生命保險會社ノ五		明治何年		何郡市町村	
職業	前年越結約	本年結約	死亡	解約	滿期	末日現在	年齡
陸軍人							十
海軍人							十
合計							七
							年
							年
							年
							年

第四十二号		何々生命保險會社ノ四		明治何年		何郡市町村	
總計	朝鮮	合計	兵	大	京	東	年齡
	々		々	庫	坂	都	京

具	器	役	路線		敷地	積立金	興業費	拂込資本金	總資本金	株數	株主人員
			線路延長	線路延長							
貨車	客車	機關車	員	員	停車場其他坪數	線路坪數	創業ヨリ現在マテ				
金益引差			出			支			入		
計			何割本年積立金			何線役員給料			何荷物賃賃		
拂込資本金百圓ニ付割賦金			計			計			計		

二百三十

第四十八号		何々鐵道會社ノ二		明治何年	
計	停車場	乗車	客	數	全上賃金
		下	等	計	
計	停車場	貨物	客	數	全上賃金
		手廻及小荷物	官	計	
積出	貨物	計	上ノ内重ナル荷		
受入	貨物	計			

一本表ハ本縣管内ノ停車場ニ限ル次表モ之ニ全シ

第四十九号 何々鐵道會社ノ三 明治何年

農務 農商工通信報告

二百二十一

淡菜 (イガイ)	牡蠣 (カキ)	蛤 (ハマグリ)	煙 (アゲマキ)	鮑 (アハビ)	休魚 (ヤスミウチ)	伊佐木 (イサキ)	鰯 (エイ)	砂魚 (ハセ)

鱈 (サヨリ)	飛魚 (トビウオ)	鰯 (コナ)	糠蝦 (アミ)	王餘魚 (カナギ)	鱈 (ストキ)	鼠頭魚 (ネズミ)	黑鯛 (クロダイ)	鞋底魚 (カサゴ)

鮫 (ハヘ)	鯉 (コイ)	鰻 (ウナギ)	鮎 (アユ)	鱧 (スッポン)	石花菜 (イソナ)	和布 (ハカメ)	海苔 (ノリ)	海鼠

玉球貝 (タマキ)	海苔貝 (ウダマキ)	女冠者 (メカサビ)	彌勒貝 (ミロク)	板屋貝 (イタヤ)	乳母貝 (ウチノメ)	竹煙 (タケノコ)	蜷 (アサリ)	汐吹具 (シブキ)

第五十九号 水産製造物							濱浦湖川名		濱浦湖川名		何郡市町村								
乾	乾	乾	田	乾	海	錫	數	量	價	額	數	量	價	額	數	量	價	額	
鰹	鱈	鱈	作	王	參	(スルメ)													
							貫				貫				貫				圓

一本表ニ何々トアルハ其地方ニ於テ指定漁獲物ノ外多數ノ漁獲アリタルモノヲ記スヘシ
 一本表ハ何地方ニ於テ漁獲セシテ問ハズ所属漁民ノ捕獲シタルモノヲ悉皆掲載スルモノトス

價	雜	雜	雜	何	何	鮎
格	藻	貝	魚	々	々	(フナ)
計						

乾 ^ホ	乾 ^ホ	乾 ^ホ	鹽 ^シ	鹽 ^シ	乾 ^ホ	鹽 ^シ	鹽 ^シ	鹽 ^シ
汰 ^ホ	竹 ^ホ	煙 ^ホ	鱒 ^シ	鱒 ^シ	鱒 ^シ	鱒 ^シ	鱒 ^シ	鱒 ^シ
菜 ^イ	煙 ^テ	煙 ^テ	鱒 ^シ	鱒 ^シ	鱒 ^シ	鱒 ^シ	鱒 ^シ	鱒 ^シ

鹽 ^シ	燒 ^キ	燒 ^キ	燒 ^キ	燒 ^キ	乾 ^ホ	表 ^ニ	乾 ^ホ	鱒 ^シ
	砂 ^ハ					乾 ^ホ		
飯 ^コ	魚 ^ヒ	鱒 ^シ	鯛 ^キ	飯 ^コ	飯 ^コ	鱒 ^シ	鮑 ^シ	鱒 ^シ

一、遠洋漁業トハ北海道方面或ハ露領沿海、朝鮮沿海、台灣沿海ノ如キ遠隔ノ海面ニ於テ漁獵スル
 ヲ云フ
 一、場所ノ欄ニハ海獵ニ從事セシ海面ヲ記スヘシ

○福岡縣訓令第一五号

(明治三十三年三月九日)

郡役所 市役所

町村役場

他人ノ掘採セル鑛物ヲ買入レ製煉スル者又ハ砂鑛ヲ製煉スル者アルハ別表ニ依リ一ケ年ノ工程
 ナ取調翌年二月限リ報告スヘシ
 但明治二十八年(四月)訓第一四六號ハ自今廢止ス

製煉工場位置		製煉人	住所	氏名
種別	越			
品	鑛	高買入	高	製煉ニ附シタル鑛物高
			殘	高
明治何年(何)				

製煉業明細表

事記	品	製		數	販	量	代	買	價	殘	額
		種	別								

注意

- 一、種別ノ欄ニハ越高以下各欄ニ記入スヘキ鑛品製品ノ各種類ヲ列記スヘシ
- 一、鑛品ハ貫テ單位トシ製品ノ内金銀ハ勿其他ハ斤ヲ單位トス
 但飭品製品ノ區別ナク鉄類ハ貫、石油ハ舛ヲ單位トス
- 一、砂鑛ヲ製煉スル場合ニ於テハ自己ノ採取セルモノト買入レタルモノトヲ問ハス同一ニ買入
 高ノ欄ニ記入スヘシ
- 一、鑛業條例ニ所謂鑛業人ト雖モ買入鑛物ニ係ル分ハ總テ本表ニ記入スヘシ

○福岡縣訓令第九五号

(明治三十三年八月十四日)

市役所

客年勅令第四百五十七号會計検査院事務章程第三十四條ニ依リ同院ノ要求有之候條其地ニ於ケル
 左表ノ物品毎月平均相場翌月十五日限り堅ク報告スヘシ
 但明治三十一年四月以降本年七月ニ至ル分ハ此際取調速ニ報告スヘシ

物品名	種類	單位	代價
三池塊炭	上中下	キロ	
唐津塊炭	"	"	
磐城塊炭	"	"	
幌内塊炭	"	"	
三池粉炭	"	"	
唐津粉炭	"	"	
磐城粉炭	"	"	
幌内粉炭	"	"	
煉化石	燒過耐火 上中下	個	

セメント	玄米	精米	大麥	干草	藥	堅炭
九州淺野中央小野田日 本大坂各會社及船來品						
キロ	石	"	"	貫	"	"

備考 玄米、精米堅炭ハ軍隊用品種大麥干草藁ハ軍隊用馬糧ノ品種平均相場ニシテ石炭及煉化石セメントハ久留米市ノ調査ヲ要セス

○訓第四四七号 (明治二十八年十二月十七日) 郡市長

自今農蠶茶水産四業ニ係ル各種組合經費豫算ノ認可ヲ出願スルキハ其豫算ニ對スル前々年度ノ費用決算表ヲ添ヘテ差出サシムヘシ
 右訓令ス

商工

銀行

廿七年縣令第三
四号ヲ以テ第一
項追加

○縣令第三二一號 (明治廿六年七月四日)

本年五月大藏省令第七号銀行條例施行細則及ヒ全月全省令第八号貯蓄銀行條例施行細則ニ據リ願
届等ニ關スル規程左ノ通り相定ム

第一 會社組織ニ係ル銀行ニ於テ資本増減ノ認可ヲ申請セントスルキハ増減ノ理由及其拂込拂戻
ノ期日方法等總會ノ決議按テ具シタル參考書ヲ申請書ニ添ヘ差出スヘシ

第二 銀行ニ於テ前項全様ノキハ申請書ニ増減ノ理由ヲ記載シテ差出スヘシ

第三 銀行事業又ハ貯蓄銀行事業ヲ營ムモノ支拂ヲ停止スルキ又ハ其營業ヲ廢止スルカ解散スル
カ破産ヲ宣告セラレタルキハ其年月日及ヒ事由ヲ具シ直ニ知事ニ届出スヘシ

第四 郡市長ニ於テ前條ノ願届其他ノ書類ヲ受ケ意見アルキハ之ヲ具シ直ニ知事ニ執達スヘシ

○訓第五三三二號

(明治廿六年十一月二十日)

郡役所 市役所

銀行又ハ貯蓄銀行ニ於テ出張所其他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ハラズ一定ノ場所ヲ設ケ銀行又ハ貯

蓄銀行事業ノ全部若クハ幾部ヲ營ムキハ其場所ヲ支店ト見做シ銀行條例施行細則ニ依リ其手續ヲ
爲サシメ又貯蓄銀行ニ於テ代理店ヲ置クキハ契約書ヲ添ヘ届出ノ手續ヲ爲サシムヘシ
右訓令ス

○訓第三九二號

(明治二十七年十月三十一日)

郡市役所

銀行事業ヲ營ム會社ニシテ登記ヲ受ケタルキハ其事項及ヒ年月日ヲ届出テシムヘシ

但既ニ登記ヲ受ケタルモノハ來ル十一月十日限り其登記事項及年月日ヲ届出テシム且又他府

縣ニ在ル支店ニシテ其所在ノ地方廳ヲ經由シテ主省ニ差出スヘキモノハ皆本店ノ社印ヲ押捺
スヘキ様心得方示諭スヘシ

右訓令ス

○訓第二四七號

(明治三十年四月七日)

郡役所 市役所

株式會社及株式組織ノ銀行ニシテ往々登記届ヲ忘リ若クハ事項中區々ニ涉ル等不都合ニ付爾今左
記各項ニ依リ取扱フヘシ

右訓令ス

- 一 登記事項ハ役員交迭ノ外總テ裁判所ノ証認謄本ヲ添付速カニ届出テシムヘシ
- 二 支店設置ノ場合ハ定款變更(貯蓄銀行ニ在リテハ變更ノ認可ヲ要スルハ勿論)開業及登記届ヲ同時ニ提出セシムヘシ

銀行

三 資本金拂込ニ付テハ其都度速カニ登記ヲ受ケ届出テシムヘシ
四 以上届書ハ何レモ二通ヲ徴シ速カニ進達スヘシ

○訓第四八五号 (明治三十年七月十二日)

郡役所 市役所

既設ノ普通銀行ニシテ貯蓄銀行事業ヲ兼營セントスル場合ニ於テハ更ニ資本ヲ増加シ其營業ニ充ツルトキハ格別若シ現資本ノ一部ヲ分割シテ之レニ充テントスル場合ニ於テハ債權者ノ同意ナキトキハ認可ヲ與ヘラレサル筈ニ有之將又右資本區別ニ關スル事項ハ登記公告ヲ要スルコトニ今般其筋ノ詮議決定候趣ニ付取扱方注意スヘシ

右訓令ス

○訓第六二七号 (明治三十一年九月三十日)

郡役所 市役所

普通銀行ニ於テ資本ヲ分割シテ貯蓄部ヲ設ケタルキハ貯蓄銀行業兼營ト爲リ又資本ヲ分割セシメテ貯蓄銀行事業ヲ爲ス場合ニ於テハ全然貯蓄銀行ト相成候處當業者ハ往々右ノ區別ヲ明ニセサル爲メ照復ヲ煩ハシ其筋ニ於テ不便不勘趣ニ付自今右ノ區分ヲ誤ラサル様豫メ示達致シ置キ將來ノ取扱ニ注意スヘシ

右訓令ス

組 合

○第三十四号 (明治十八年四月九日)

石炭坑業人組合準則左ノ通相定ム

石炭坑業組合準則

第一條 本縣管内ニ於テ石炭坑業ヲ營ムモノハ一郡區若クハ數郡區ニ於テ本則ニ基キ組合ヲ設ク可シ

第二條 石炭坑業組合ニ於テハ左ノ條項其他坑業上緊要ノ事件ヲ評決シ該組合内ニ於テ之ヲ履行スルモノトス

一 石炭採掘方法ノ改良ヲ圖ル事

二 全上採掘并運搬ニ關スル諸器械使用方法ノ改良ヲ圖ル事

三 石炭坑夫并運搬夫仕役方法及ヒ其取締方法ニ關スル事

四 石炭運搬ニ關スル車道并運河ノ便ヲ圖ル事

五 石炭販賣ノ便ヲ圖ル事

六 組合會議ニ於テ議決ノ規約ニ違背スルモノ、爲メニ處分法ヲ設ル事

第三條 本組ニ於テハ組長副組長各一人ヲ組合内ノ互撰ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第四條 時宜ニヨリ數組聯合シテ議會ヲ開ク事ヲ得

第五條 該組合會議ノ議員ハ組合内ノ互撰ヲ以テ適宜ノ人員ヲ定メ會頭ハ組長之ニ任スルモノトス

第六條 聯合會議員ハ組合議員二分ノ二以内ノ人員ヲ各組々ニ於テ互撰シ會頭ハ其聯合會議員ニ

於テ互撰スルモトス

第七條 組長ハ本則第二條ノ事項ヲ整理シ且石炭坑業上公益ト認ムル事アルモ其名ヲ以テ縣廳若クハ郡區役所ヘ建議スル事ヲ得

第八條 副組長ハ組長ノ職務ニ參與シ組長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス事ヲ得

第九條 組長若クハ副組長其他役員ノ人員任期及手當ノ多寡組合經費ノ賦課法等ハ總テ組合會議ニ於テ評決スルモノトス

第十條 該組ノ規約及役員ノ人名ハ縣廳ノ認可ヲ經ルモノトス

第十一條 組合會若クハ聯合會ヲ開クモハ開會十日前縣廳ニ届出ツ可シ

第十二條 石炭坑業事件ニ付本廳若クハ郡區役所ヨリ該組合ニ對シ諮問スル事アルトキハ其答議ヲ爲スモノトス

第十三條 該組合會議ノ節ハ時宜ニヨリ縣廳及郡區主務官戸長等臨場スル事モ在ル可シ

第十四條 該組合會議ノ問題ハ組長ヨリ之ヲ發スルモノトス

但組合員ニ於テ會議ノ規則ハ全會ニ於テ之ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受ルモノトス

第十六條 組合會若クハ聯合會ニ於テ議決施行シタル條件ハ其時々組長ヨリ本縣ニ届出且縣内各全業組合ニ通報スルモノトス

第十七條 該組合ニ於テ施行シタル條件ニ付事ニ害アリト認ルモハ縣廳ヨリ取消又ハ更正ヲ命スルモノアル可シ

第十八條 本則ニヨリ縣廳若クハ郡區役所ヘ指出ス文書ハ渾テ組合事務所所在地ノ戸長役場及郡區役所ヲ經由スルモノトス

右布達候事

○第四十一号 (明治十八年五月八日)

農商工各營業上同業組合之儀今後左ノ準則ニ隨ヒ規約ヲ設ク可シ

同業組合準則

第一條 農商工業ニ従事スル同業者或ハ其營業上利害ヲ共ニスル者ニシテ組合ヲ設ケントスルモハ便宜ニ地區及人員ヲ定メ其人員四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ受ク可シ

第二條 同業組合ハ同盟者中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲ス可シ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲ク可キ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區人員及事務所ノ位地

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選舉法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右之外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利ノ事業ヲ爲スコトヲ得ス

十八年第七一號
布達及冊年縣令
第二六號ヲ以テ
改正削除

第五條 同業組合ハ總テ其事蹟及費用ノ決算又ハ同業者中營業ニ關スル統計表ヲ作り毎年縣廳ニ報告スヘシ

第六條 規約ヲ改正スルキハ更ニ縣廳ノ認可ヲ請フ可シ

第七條 分立又ハ合併スルキハ更ニ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ請フ可シ

第八條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルキハ縣廳ノ認可ヲ請フ可シ

但其聯合ニ縣以上ニ涉ルキハ開會地ノ縣廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フ可シ
右布達候事

○甲第百十五号 (明治十八年十月十四日)

郡 區

本年本縣第四十一号布達ニ基キ組合ヲ設置シ規約認可濟ノ上ハ直ニ該役員住所族籍氏名及給料可令届出
右相達候事

○第四百八十号 (明治十八年十二月五日)

各 郡 區 長

本年甲第九十九号達ヲ以テ本年第四十一号布達同業組合準則ニ基キ組合ヲ設置スルハ重要物産ニ可限旨相達置候處右準則ニ據ラズ單ニ組合ヲ設ケ認可願出候モノニシテ果シテ營業上ノ弊害ヲ矯メ得ラルヘキモノト認ムルハ規約認可施行セシメ候條爲心得此旨訓示候也

參照十八年甲第九號達ハ廿九年以テ廢止

廿六年縣令二八號
廿七年縣令三五號
廿八年縣令四二號
廿九年縣令五〇號
三十年縣令五八號
三十一年縣令六六號
三十二年縣令七四號
三十三年縣令八二號
三十四年縣令九〇號
三十五年縣令九八號
三十六年縣令一〇六號
三十七年縣令一一四號
三十八年縣令一二二號
三十九年縣令一三〇號
四十年縣令一三八號
四十年修正

○縣令第六十二号 (明治廿五年八月廿二日)

重要物産同業組合取締規則左之通相定メ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス

(改正按取調中ニ付本文畧ス)

○訓第一九五号 (明治廿八年五月廿四日)

郡 役 所 市 役 所

官廳ノ命令ニ依リ組織シタル各種同業組合ニ於テ組合會議ニ經費豫算ヲ付議シ又ハ經費決算ヲ報告セントスルトキハ別紙表式ニ準據シタル豫算表又ハ決算表ヲ提出セシメ知事ニ豫算ノ認可ヲ請ヒ又ハ決算ノ報告ヲ爲スルモ同様ノモノヲ差出サシムヘシ
右訓令ス

(別紙)

明治何年 自何月 至何月 何組合 歲入豫算表

科	目	前年度豫算額	本年度豫算額	備	考
第一款	前年度繰越金				
第二款	利 子				

商 工 組 合

一 貸付金利息	二 預金利息	三 公債利子	第三款 加入金	第四款 章標料	一 組合員章標料	二 仲買人章標料	三 何々章標料	第五款 手數料
基本金貸付元金何圓年何割又ハ月何分 何々貸付元金何圓年何割又ハ月何分 郵便局預元金何圓何銀行預何圓年又ハ月何分	何々公債証書額面總額何百圓	組合加入者何人一人ニ付何錢			組合員章標何人分一人ニ付何錢	仲買人章標何人分一人ニ付何錢	、 、 、 、 、	

一 檢查手數料	二 章標再渡手數料	第六款 雜收入	一 違約金	二 過怠金	三 不用品賣却代	第七款 組合割	一 組合員割	二 何々割
何々檢查手數料何圓何々何圓	何々章標再渡手數料		、 、 、 、 、	、 、 、 、 、	、 、 、 、 、		組合員何十人一人ニ付何錢	、 、 、 、 、

以下做之		合計							
明治何年自何月何組合歲出豫算表									
科	目	前年度豫算額	本年度豫算額	備	考				
第一款給料									
一 組長給料				年俸若クハ月俸何圓					
二 幹事給料				年俸若クハ月俸何圓何人					
三 書記給料				月俸何圓何人何圓何人					

四 何々給料								月俸何圓何人
第二款雜給								
一 旅費								組長旅費日當何圓幹事全何圓取締人全何圓書記全何圓檢査人全何圓
二 報酬								取締人報酬何圓何人
三 手當金								何々檢査人手當金何圓何人
四 實費辨償額								評議員何人辨當料一人何錢何回分
五 小使給								小使何人日給何錢
第三款需用費								
一 備品費								何器具新調何圓何買入費何圓

第二條 度量衡器取締ノ爲メ檢定官吏又ハ警察官ヲシテ營業者又ハ使用者ニ就キ臨檢ヲ行ハシムルコトアルベシ

第三條 臨檢官吏ニ於テ差狂アリト認ムル度量衡器アルトキハ營業者又ハ使用者ニ對シ相當ノ期限内ニ之レカ修覆ヲナシ若クハ其檢定ヲ受クヘキコトヲ命スルコトアルヘシ
前項ノ命令ヲ受ケテ其器物ヲ修覆シ若クハ檢定ヲ受ケタルトキハ其始末ヲ所轄警察署又ハ警察分署ヘ届ケ出ツヘシ

第四條 臨檢官吏ハ前條一項ノ場合ニ際シ營業者又ハ使用者ニ於テ爾後販賣シ若クハ使用セサルコトヲ申立ツル器物ニ對シ直ニ其面前ニ於テ凡テノ檢定証印又ハ証書ヲ消毀スヘキコトヲ命スルコトアルヘシ

第五條 營業者又ハ使用者ハ其販賣シ若クハ使用スル度量衡器ニ差狂ヲ生シタル疑ヒアルトキ及構造ニ異狀ヲ生シタルトキハ直ニ之レカ修覆ヲナシ若クハ其檢定ヲ受クヘシ

第六條 使用者ハ差狂ヲ生スヘキ外物ノ附着シタル度量衡器ヲ使用スルコトヲ得ス

第七條 使用者ハ差狂ヲ生シ若クハ構造ニ異狀ヲ生シタル度量衡器ヲ賣買授受証明ヲナス場所ニ置キ又ハ行商ノ際之ヲ携帶スルコトヲ得ス

第八條 營業者ハ差狂ヲ生シ若クハ構造ニ異狀ヲ生シタル度量衡器、外國度量衡器又ハ度量衡類似器物ヲ販賣所ニ陳列スルコトヲ得ス

第九條 營業者ニ於テ度量衡器ノ修覆ヲナシタルトキハ其檢定ヲ受ケタル後ニアラサレハ之レヲ修覆委託者ヘ渡スコトヲ得ス

但度量衡法第九條三項ニ該當スルモノ、修覆ヲナシタル場合ハ此限ニアラス

第十條 營業者ニ於テ桿秤ノ取締及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修覆ヲナサントスルモノハ左ノ事項ヲ記載シタル届書ヲ縣廳ヘ差出シ同時ニ其寫一通ヲ市役所又ハ町村役場ヘ差出スヘシ
其修覆場ノ位置又ハ秤架及分銅ノ種類個數ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

- 一、修覆場ノ位置
- 二、秤架ノ個數
- 三、分銅ノ種類及其個數

第十一條 營業者ニ於テ桿秤ノ取締及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修覆ヲナス場合ニハ左ノ手續ヲ行ヒ差狂ノ有無ヲ檢スヘシ

- 一、直點及盛出ニ於テ正シク平等スルヤ否ヤ
- 二、秤量ニ於テ正シク平等スルヤ否ヤ若シ平等セサルモ其差ハ規定ノ公差以内ニアルヤ否ヤ
- 三、規定ノ感量ヲ有スルヤ否ヤ

但秤量拾五貫又ハ五十「キログラム」以上ノモノハ十五貫又ハ五十「キログラム」ニ相當スル目盛ニ於テ其掛量ノ正否及感量ノ有無ヲ檢スヘシ

第十二條 營業者ニ於テ桿秤ノ取締及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノヲ修覆スルニ際シ差狂アリト認ムル器物アルトキハ直ニ其差狂ノ局部種類秤量記號年號番號及修覆委託者ノ住所職業氏名ヲ記載シタル届書ヲ所轄警察署又ハ警察分署ヘ差出シ其指揮ヲ受クヘシ

第十三條 營業者ハ其設計書ノ寫ヲ(製作者及修覆者ハ之レニ其記號ノ寫ヲ添フ)市役所又ハ町村役場ヘ差出スヘシ
其設計變更ノ認可ヲ受ケタルトキ又ハ記號ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十四條 營業者ハ何器製作所何器修葺所何器販賣所又ハ桿秤ノ取締及錘絲修葺所ト明記シタル看板ヲ掲クヘシ

第十五條 營業者ハ度量衡各器ニ就キ左ノ帳簿ヲ備ヘ七年間之ヲ保存スヘシ

一 製作者

何器製作帳

此帳簿ニハ製作シタル器物ノ種類個數代價年号番号年月日ヲ記入スルモノトス

何器卸賣帳

此帳簿ニハ販賣者ヘ販賣シタル器物ノ種類個數代價年号番号年月日並ニ販賣者ノ府縣名並ニ氏名ヲ記入スルモノトス

何器小賣帳

此帳簿ニハ使用者ニ販賣シタル器物ノ種類個數代價年月日並ニ購買者ノ住所氏名(但シ竹製度量器ハ此限リニアラズ)ヲ記入スルモノトス

二、修葺者〔製作者ニシテ修葺ヲ兼テタルモノ及桿秤ノ取締及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修葺ヲナス衡器販賣者亦同シ〕

何器修葺帳

此帳簿ニハ修葺シタル器物ノ記号年号番号種類個數修葺料年月日及修葺シタル局部並ニ修葺委託者ノ住所職業氏名ヲ記入スルモノトス

三、販賣者

何器仕入帳

此帳簿ニハ仕入レタル器物ノ種類個數代價年月日及製作者ノ府縣名並ニ氏名ヲ記入ス

ルモノトス

何器販賣帳

此帳簿ニハ製作者ノ小賣帳ト同様ノ事項ヲ記入スルモノトス

第十六條 度量衡器ノ製作者ハ甲號書式ニ同修葺者ハ乙號書式ニ同販賣者ハ丙號書式ニ衡器製作者衡器修葺者又ハ衡器販賣者ニシテ桿秤ノ取締及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修葺ヲナス者ハ丁號書式ニ據リ前年四月ヨリ其年三月ニ至ル一ケ年分ノ報告書ヲ調製シ毎年四月十五日限リ郡市役所ヲ經テ縣廳ヘ差出スヘシ

營業者ニシテ廢業届ヲ差出ス者ハ同時ニ其年度内ニ於ケル製作修葺又ハ販賣高ヲ前項ノ書式ニ據リ報告スヘシ

第十七條 第九條又ハ第十一條ニ違犯シタル者ハ五圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ事項ニ該當シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一 第三條一項及第四條ノ命令ヲ受ケテ之レニ從ハサル者

一 第三條二項第五條第六條第七條及第八條ニ違犯シタル者

一 第十二條ノ届出ヲナシ其指揮ヲ受ケカル者

第十九條 左ノ事項ニ該當スル者ハ五拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

一 第十條第十三條第十四條第十五條及第十六條ニ違犯シタル者

附 則

第二十條 本規則ハ明治三十一年七月一日ヨリ施行ス

第二十一條 從來ノ營業者ハ明治三十一年七月三十一日マテニ本規則第十條及第十三條一項ノ手

(甲號) 自何年四月 度器製作販賣高報告
至何年三月

(美濃界紙)

種別	直尺		疊尺		卷尺		鍍尺		曲尺		鯨尺	疊尺	卷尺	合計	各段金額
	メートル	尺	メートル	尺	メートル	尺	メートル	尺	メートル	尺					
前年度															
越年度															
製作高															
縣外															
賣高															
縣內															
小賣高															
現在高															

右ノ通り相違無御座候也

年月日

營業所番地

度器製作人

何ノ

誰印

知事宛

(甲號) 自何年四月 量器製作販賣高報告
至何年三月

(美濃界紙)

形狀	圓形					種類	前年度	製作高	縣外	賣高	縣內	小賣高	現在高
	圓錐形及圓形	木	鐵	金	屬								
斗	木	鐵	金	屬	屬	升							
方	木	鐵	金	屬	屬	升							
形	木	鐵	金	屬	屬	升							
概	木	鐵	金	屬	屬	升							

形状	物質	種別	筒	數	修	覆	料	合	卷	疊	鯨	曲	鏈	
													計	尺
<p>右ノ通相違無御座候也</p> <p>年月日</p> <p>知事宛</p> <p>營業所番地 度器製作又ハ修覆人 何ノ誰印</p>														

(乙號) 自何年何月 至何年何月 量器修覆高報告

(美濃界紙)

合	斗	方	圓錐形及		圓錐形		形		壻		圓	
			木	木	木	鐵	金	木	鐵	金		
計	概	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ
<p>右ノ通相違無御座候也</p> <p>年月日</p> <p>知事宛</p> <p>營業所番地 量器製作又ハ修覆人 何ノ誰印</p>												

(乙號) 自何年何月 至何年何月 衡器修覆高報告

(美濃界紙)

知事宛

度器販賣人

何ノ誰印

(丙號) 自何年四月 至何年三月 量器仕入販賣高報告

(美濃界紙)

各段金	合計	斗	圓錐形及圓錐形					圓錐形及圓錐形					形狀	物質	種別	前年度	仕入	販賣高	現在高						
			圓錐形		圓錐形及圓錐形			圓錐形		圓錐形及圓錐形										升	升	升	升	升	升
			方	形	圓錐形	圓錐形及圓錐形	圓錐形	圓錐形及圓錐形	圓錐形	圓錐形及圓錐形	圓錐形	圓錐形及圓錐形													
			木材	玻璃	木材	鐵葉	金屬	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル	リットル						
			リットル	リットル	リットル	リットル	リットル																		

右ノ通り相違無御座候也

年月日

。

營業所番地

量器販賣人

何ノ誰印

知事宛

(丙號) 自何年四月 至何年三月 衡器仕入販賣高報告

(美濃界紙)

種別	分銅					天平		台秤		木骨桿秤		金屬桿秤		合計	前年度	仕入	販賣高	現在高
	貫	キログラム	貫	キログラム	貫	キログラム	貫	キログラム	貫	キログラム	貫	キログラム						

各段金額

右ノ通り相違無御座候也

年月日

營業所番地

衡器販賣人

何ノ誰印

知事宛

(丁号) 自何年四月 至何年三月 桿秤ノ取緒及鍾糸ニシテ金属ニアラサルモノ、修復高報告 (美濃界紙)

種別	個數	修復料	桿秤	
			貫	キログラム
計				

右ノ通り相違無御座候也

年月日

營業所番地

衡器製作修復若クハ販賣人

何ノ誰印

知事宛

○訓第三七六号 (明治三十一年六月二十八日)

郡役所 警察署
警察分署 市役所
町村役場

明治二十八年(八月)訓第二七八號度量衡取締規則施行規程左ノ通り改定ス

度量衡取締規則施行規程

第一條 警察官ハ其所轄内ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ爲シ必要ト認ムル場合ニハ隨時臨檢ヲ行フヘシ

前項ノ外毎年特ニ指定スル期限内ニ於テ臨檢ヲ行フヘシ

第二條 警察官及市町村長ハ檢定官吏ノ請求ニ應テ其補助ヲナスベシ

第二條 營業者ニ對シ臨檢ヲ行フトキハ左ノ事項ヲ逐一調査スベシ

一、刑法第二百二十七條第二百二十八條第二百二十九條第二百三十條ニ該當スル者アラサルヤ

二、免許ヲ受ケスシテ製作シ修復シ若クハ販賣スル者アラサルヤ(明治二十四年法律第三號度量衡法第八條)

三、檢定ヲ受ケス又ハ差狂アルモノヲ販賣スル者アラサルヤ(明治二十四年法律第三號度量衡法第九條)

廿一年訓令第四
五七号ヲ以テ第
一號第十一條中
改正

- 四、汚染磨滅毀損等ニ依リ證印若クハ證書ノ識別シ難キモノ又ハ證書ノ紛失シタルモノヲ販賣スル者アラサルヤ(明治三十年七月農商務省令第十一号度量衡法施行規則第七條)
- 五、免許狀ヲ紛失シテ更ニ其下付ヲ請ハサル者アラサルヤ(明治三十年七月農商務省令第十一号度量衡法施行規則第三十三條第三項)
- 六、製作者又ハ修葺者ニ於テ其原器ヲ備ヘサル者アラサルヤ(明治三十年七月農商務省令第十一号度量衡法施行規則第三十七條)
- 七、製作者修葺者又ハ輸入販賣者ニシテ其記號ヲ届出テサル者アラサルヤ(明治三十年七月農商務省令第十一号度量衡法施行規則第三十八條)
- 八、營業ヲ廢止シテ届出テサハルモノアラサルヤ(明治三十年七月農商務省令第十一号度量衡法施行規則第三十九條)
- 九、衡器販賣者ニ於テ届出テサハラスニテ桿秤ノ取締及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修葺ヲナス者アラサルヤ(明治三十年七月農商務省令第十一号度量衡法施行規則第四十一條)
- 十、衡器販賣者ニ於テ取締及錘絲ノ修葺ヲナスモノニシテ成規ノ秤架及分銅ヲ備ヘサル者アラサルヤ(明治三十年七月農商務省令第十一号度量衡法施行規則第四十二條)
- 十一、衡器製作修葺者シハ販賣者ニシテ桿秤ノ取締及錘絲修葺ノ際差狂アリト認ムルモノヲ届出サルコトナキヤ(明治三十年七月農商務省令第十一号度量衡法施行規則第四十三條)
- 十二、三十一年縣令第三五号度量衡取締規則第九條又ハ第十一條ニ違犯スル者アラサルヤ
- 十三、同規則第三條一項及第四條ノ命令ニ違犯スルモノ又ハ第三條二項第五條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條ニ違犯スル者アラサルヤ

第四條 使用者ニ對シテ臨檢ヲ行フトキハ左ノ事項ヲ逐一調査スヘシ

- 一 刑法第二百二十九條及第二百三十條ニ該當スル者アラサルヤ
- 二 檢定ヲ受ケサルモノヲ使用スル者アラサルヤ(明治二十四年法律第三号度量衡法第九條)
- 三 修葺シテ檢定ヲ受ケサルモノヲ使用スルモノアラサルヤ(同前)
- 四 定期間ニ檢定ヲ受ケサルモノヲ使用スル者アラサルヤ(同前)
- 五 汚染磨滅毀損等ニ依リ證印若クハ證書ノ識別シ難キモノ又ハ證書ノ紛失シタルモノヲ使用スル者アラサルヤ(明治三十年七月農商務省令第十一号度量衡法施行規則第六條)
- 六 三十一年縣令第三五号度量衡取締規則第三條一項又ハ第四條ノ命令ニ違犯スル者及第三條二項第四條第五條第六條第七條ニ違犯スル者アラサルヤ
- 第五條 臨檢ノ際取締規則第三條一項ノ命令ヲシタルトキハ其請書ヲ徵スヘシ
但請書ニハ器物ノ種類個數其他必要ナル事項ヲ附記セシムヘシ
- 第六條 本規程第三條第四條ニ該當スルモノヲ告發シ若クハ處分シタルトキハ同時ニ本廳ヘ報告スヘシ
- 第七條 度量衡法施行規則第四十三條ノ届出ヲナスモノアルトキハ其使用者ニ對シ直チニ修葺ヲナシ又ハ檢定ヲ受ケヘキコトヲ命スヘシ
- 第八條 度量衡器ノ取締ニ關シ檢定官吏ノ臨檢ヲ要スルトキハ其旨具申スヘシ
- 第九條 度量衡取締規則第十六條ニ依リ營業者ヨリ差出ス報告書ハ郡市役所ニ於テ取纏メ毎年四月二十五日限リ進達スヘシ
- 第十條 度量衡取纏證票ヲ紛失シ若クハ破損シタルトキハ其事由ヲ具シ再渡ヲ請求スヘシ

第十一條 警察官ニシテ第一條第二項ノ臨檢ヲ行ヒタルトキハ其結了後三十日以内ニ左ノ様式ニ據リ報告スヘシ

度量衡臨檢報告書

何警察署又ハ分署

種別	營業者				合計
	度量衡器製作者	同 修覆者	同 販賣者	取緒及錘絲修覆者	
人員					
個數					
合計					

犯罪事項

營業者人員

使用者人員

犯罪事項	營業者人員	使用者人員
(例示) 刑法第何條ニ該當シタル者		
度量衡法第何條ニ該當シタル者		
度量衡法施行規則第何條ニ該當シタル者		
度量衡取締規則(縣令)第何條ニ該當シタル者		
、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、		
、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、		
修覆ヲナシ又ハ檢定ヲ受クヘキヲ命ジタル者		

證印又ハ證書ノ消毀ヲ命シタル者

右報告候也

年月日

知事宛

何警察署長又ハ分署長印

郵便

○訓第三十四号 (明治二十年一月十九日)

郵便物受取人所在不分明ノ時配達人ヨリ其所轄戸長役場ニ就キ當人在籍有無ノ取調若シクハ証明ヲ請求スル場合ニ於テハ其請求ニ應スヘキ様各戸長へ達置ク可シ

郡區長

○訓第三四一号 (明治廿一年五月九日)

三等郵便局長ノ採用ニ關シ郡區長戸長ハ遞信管理局長ヨリノ照會又ハ依託ニ應シテ便宜處辨ス可シ

郡區役所 戸長役場

○訓第四一四号 (明治廿一年六月六日)

郵便受取所取扱人郵便貯金預所取扱人ノ採用ニ關シ遞信管理局長ノ照會又ハ依託アルトキハ郡區長戸長ハ其照會又ハ依託ニ應シ便宜處辨スヘシ

郡區役所 戸長役場

○廳達第八三号 (明治廿四年六月廿六日)

書狀送達ノ儀ハ郵便條例第六十七條ノ特例ヲ除ク外總テ郵便ニ依ルヘキハ今更相達スル迄モ無之候得共今般其筋ヨリ内訓ノ次第モ有之就テハ萬一所屬小使或ハ受負人夫ノ類ヲ使用シ違法ノ送達ヲ爲サシムルモノ有之候テハ甚不都合ノ至ニ付自今一層注意スヘシ

- 官房 内務部
- 警察部 各警察署
- 各警察分署 直稅署
- 直稅分署 間稅署
- 間稅分署 監獄署
- 監獄支署

○訓第四一二号 (明治廿四年六月廿六日)

郡役所 市役所
町村役場

書狀ノ送達ハ郵便條例第六十七條ノ特例各項ヲ除ク外總テ郵便ニ依ルヘキハ今更訓示スル迄モ無
之候得共近來或ル地方ニ於テ所屬小使或ハ受負人夫ノ類ヲ使用シ書狀ノ送達ヲナサシムルノ聞ヘ
有之趣ヲ以テ今般其筋ヨリ特ニ内訓ノ次第モ有之候條自今右等違法ノ送達ヲナスモノ無之様一層
注意スヘシ
右訓令ス

○訓第四五九号 (明治廿五年九月十七日)

郡役所 町村役場

書狀送達ノ件ニ付テハ客年訓第四百十二号訓令ノ趣モ有之候處縣下某地方町村役場ニ於テハ新聞
配達人ト契約シ若干ノ送達料ヲ以テ郡役所又ハ直間稅分署ヘ送達スヘキ信書ヲ私送セシムルモノ
有之其委嘱ヲ受ケ送達シ又ハ送達セシムルモノハ郵便條例第二百三十條ニ依リ處分セラルト雖
モ如此非法ノ信書ヲ接受スルモ實ニ失當ノ處爲ニ有之右ハ郵便事務上容易ナラサル事体ニ付其筋
ニ於テモ嚴重取締可相成筈ニ有之候條不都合無之様相心得ヘシ
右訓令ス

電信電話

○訓令第六〇号 (明治二十八年十月二日)

私設電信線、新設若クハ變更出願許可セラレタルモノハ該工事着手ノ節其都度(所轄郡市役所)届出又
竣工ノ上ハ別紙雛形ニ依リ線路明細表ヲ差出スヘシ

(用紙美濃紙)

何所何所間(電信線又ハ電報線)何年何月何日起工

一線路延長 何里何町何間

内

何里何町何間 (何條)新築

何里何町何間 (何條)添架

一線條延長 何里何町何間

一本柱 何本

一支柱 何本

一支線 何本

一碼子 何箇

内

通 何箇

茶 何箇

船 舶

○訓第三五二号 (明治廿九年六月五日)

郡 役 所 市 役 所

凡ソ登簿噸數一百噸以上ノ内外國航船ヲ新造若クハ外國ヨリ買入タル者アルハ海上運輸ニ係ル調査上必用ノ諸件ニ關シ海軍々令部ニ於テ臨檢調査シ又已ニ該調査ヲ了シタル船舶ト雖モ其構造ヲ變更シタル等ノ場合ニ於テハ更ニ臨檢調査スヘキ旨其筋ヨリ通達有之候條各船主ヘ相達スヘシ

右訓令ス

○訓第四五九号 (明治廿九年七月廿五日)

郡 役 所 市 役 所

戰時運輸ニ係ル必要ノ諸件調査之爲メ參謀本部々員ヲ派遣シ各港ノ汽船ニ就キ實地調査セシムルコト可有之旨這般陸軍大臣ヨリ示達相成候條管下各船主ニ相達スヘシ

但シ日本形船舶ニシテ本文調査ノ必要アルハ派遣員ヨリ直ニ打合セアルヘキニ付此旨心得

右訓令ス

○縣令第九〇号 (明治廿九年十二月廿四日)

本年(十二月)遞信省令第二十五号船鑑札規則第二條第五條第六條ニ依リ船鑑札ヲ受有セントスル

トキ及ヒ書換又ハ證明若クハ更ニ船鑑札ノ下付再授ヲ要スルトキハ船籍所在地ノ所轄郡市長ニ申請スヘシ且船鑑札返納ノ場合モ所轄郡市長ニ對シ其手續ヲナスヘシ

○訓第七七二号 (明治廿九年十二月廿四日)

郡 役 所 市 役 所

今般縣令第九〇号ヲ以テ船鑑札規則ニ關スル申請ノ手續等發布候ニ付テハ施行手續左ノ通相定候條右ニ依リ取扱フヘシ

右訓令ス

船鑑札規則施行手續

第一條 郡市役所ハ船鑑札臺帳ヲ備置キ(西洋形船舶ト日本形船舶トハ便宜區分スルヲ要ス)船鑑札規則ニ據リ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ件名船鑑札ノ番号及其下付書換再授若クハ返納ノ年月日並ニ事由ヲ記載スヘシ

第二條 郡市役所ニ於テ船鑑札規則第二條ニ據リ件名書ヲ受理シタルトキハ其船舶ニ就キ尺度及積量ハ船舶積量測定規則ニ從ヒ公稱馬力ハ公稱馬力算定方法ニ據リ之ヲ審査スヘシ

船鑑札ニ記載シタル尺度積量若クハ公稱馬力ニ變更ヲ生シ其書換ヲ申請シタルトキハ之ヲ審査シ必要ト認ムル場合ニハ其船舶ニ臨檢スヘシ

第三條 船鑑札ニ記載スル長幅深總噸數登簿噸數及公稱馬力ハ單位以下二位ヲ以テ限トス但長幅及深ハ尺ヲ以テ單位トス

第四條 船鑑札規則第五條第二項ニ據リ件名書ノ證明ヲ申請シタルトキハ之ヲ船鑑札臺帳ニ照査シ誤謬ナシト認ムル場合ニハ件名書ニ所印ヲ捺シ之ヲ交付スヘシ

- 一 船鑑札下付事由ノ欄内ニハ新造、外國船購入若ハ管轄官廳ノ變更等船鑑札下付シタル原由ヲ記載シ且管轄官廳ノ變更ニ係ルトキハ舊管轄官廳名ヲ記載スルヲ要ス。
- 一 船鑑札書換事由ノ欄内ニハ書換ニ係ル新舊船鑑札面ノ事項且所有者ノ變更ニ係ルトキハ新所有者ノ住所氏名ヲ記載スルヲ要ス。
- 一 船鑑札ヲ再授スルニ當リ其書換之ニ伴フトキハ第二表ニ編入スヘシ。
- 一 船舶ノ製造地名、製造年月若ハ造船工長氏名明ナラサルトキハ其欄内ニ不詳ト記載スヘシ。

○告示第二〇六号 (明治三十年十月九日)

今般長崎縣ニ於テ左記ノ通り縣令發布ノ旨通知アリ

長崎縣令第三十一號

- 第一條 長崎港改良工事ノ爲メヨスル深淺測量施行中ハ其ノ区域内ニ船舶ノ碇泊ヲ禁シ浚渫工事施行中ハ其ノ区域内ニ船舶ノ航行及ビ碇泊ヲ禁ス
- 第二條 前條ノ測量及浚渫工事施行ノ區域並ニ期間ハ其都度之ヲ告示シ浚渫工事施行ノ區域ハ左記雛形ノ浮標ヲ以テ之ヲ表示ス
- 第三條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵製

縮尺五十分ノ一

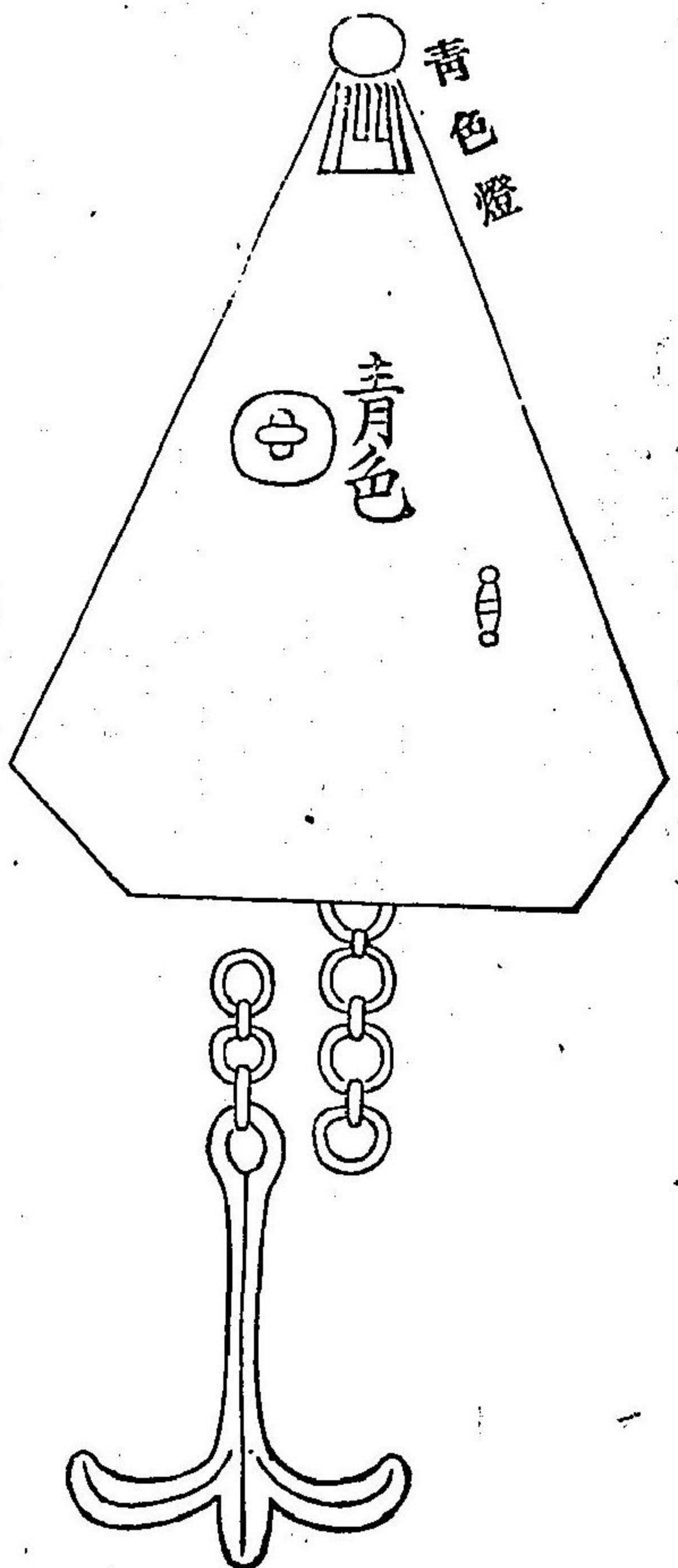
即チ一分ヲ五寸トス

○訓第六七八号 (明治三十年十月廿三日)

沿海郡役所 市役所

西洋形船ト日本形船トノ區別ハ從來明確ヲ欲キ候所右ハ船舶検査法等ノ施行ニ伴ヒ明ニ區別ヲ要スルヲ以テ爾後左ニ掲クル條件ヲ具備スルモノハ西洋形船ニ編入シ然ラサルモノハ總テ日本形船トシテ取扱フヘキ旨今般其筋ヨリ牒示ノ次第有之候條此旨心得ヘシ

一 助骨ヲ有スルヲ



- 二 甲板梁及甲板ヲ有スルコト
- 三 船尾材ヲ有シ之ニ舵ヲ取附クルコト

○訓第七〇九号 (明治三十一年十一月十八日)

郡市役所

台湾ニ船籍ヲ定メントスル者假船籍証書若クハ假船鑑札ノ下付ヲ申請スルキハ台湾船籍規則台湾船籍規則施行細則及臺灣船舶積量測度規則ニヨリ取扱ヒ測度表ト共ニ書類當廳へ進達ス可シ右訓令ス

魚市場

○縣令第五十六号 (明治廿四年八月十七日)

魚市場規則左ノ通り相定メ本年十月一日ヨリ施行ス

魚市場規則

- 第一條 魚市場トハ一定ノ場所ニ於テ魚類商人集合シテ魚類ヲ販賣スル場所又ハ漁業者其他ヨリ送荷シタル魚類ヲ仲買人小賣人等ニ競賣スル場所ヲ云フ
- 第二條 魚市場ヲ開設セントスルトキハ左記ノ事項ヲ具シ市町村長及郡長ヲ經由シテ縣廳ニ出願許可ヲ受クベシ
 - 一 魚類商人集合シテ販賣スル市場ニ於テハ其組合規約
 - 一 漁業者又ハ其他ヨリ送荷シタル魚類ヲ競賣スル市場ニ於テハ其物品受授ノ方法水揚代金受

渡手續及賣買手数料契約額但二人以上共同シテ開場スル者ハ其組合規約沿海地方ノ市場ニ

シテ漁業者ヨリ直ニ送荷スルモノハ漁業組合頭取ノ承諾書

- 一 市場ノ位置ヲ記入シタル近傍街路ノ詳圖
- 一 市場建物坪數窓隔ノ尺度汚水排泄並ニ地盤構造ノ區別ヲ記載シタル圖
- 第二條 魚市場組合規約又ハ物品受授ノ方法賣買手数料等ヲ改正シ若クハ市場ノ位置又ハ市場ノ構造等ヲ變更スルトキハ前條ニ依リ出願許可ヲ受クベシ
- 第三條 郡長市長ニ於テ第二條第三條ノ出願ヲ受ケタルトキハ警察署長又ハ分署長ト臨檢シ市場ノ位置及構造ノ適否ヲ檢査シ意見書ヲ作り願書ト共ニ差出スベシ
- 第五條 魚市場ノ新築改築又ハ其構造ノ變更許可ヲ受ケ工事ヲ終ヘタルトキハ郡長市長ニ届出出來形檢査ヲ受クベシ其檢査済ノ上ニ非ラサレハ營業ヲ開始スルコトヲ得ス
- 第六條 魚市場構内ノ地盤ハ敷石煉瓦又ハ三和土ニ限ル而シテ敷石ヲ布設スルモノハ其合目ニ三和土ヲ用ユベシ
- 第七條 魚市場汚水ノ排泄ニ付テハ明治二十年縣令第百二十八号規則第二章第十條ニ依リ下水路ヲ設クベシ
- 第八條 魚市場ヲ閉鎖シタル后ハ其都度構内ヲ洗淨スベシ
- 第九條 組合ノ規約ニ掲クヘキ概目左ノ如シ
 - 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
 - 一 組合入退ノ手續
 - 一 役員及其權限

- 一 役員撰擧ノ方法
 - 一 會議ニ關スル規程
 - 一 組合費用賦課徴収支出ノ方法
 - 一 違約者處分ノ方法
- 右之外組合ニ於テ必要トスル事項
- 第十條 魚市場構内又ハ下水路破損スルトキハ速ニ修補ヲ加フヘシ若シ修補ヲ怠タル場合ハ市町村長ニ於テ之ヲ修補シ其入費ハ關係者ヨリ賠償セシムヘシ
- 第十一條 本則第二條第三條ニ依リ許可ヲ受ケズシテ市場ヲ開設シタルモノ又ハ第五條ノ届出ヲ怠リ若シハ第六條第七條ノ規則ニ據ラサルモノ及ヒ第八條ノ規則ニ背キ官署ノ督促ヲ受ケ尙ホ肯セサルモノハ二日以上五日以内ノ拘留若クハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
- 附則
- 一 從來ノ魚市場ハ此規則施行ノ日ヨリ六十日以内ニ出願許可ヲ受クヘシ

○訓第五百八十二号

(明治廿五年十一月廿九日)

郡役所 市役所

明治廿四年縣令第五十六号魚市場規則ニ依リ開設ノ魚市場ハ左記ノ表式ニ遵ヒ毎全年間成績取調翌年一月廿五日迄ニ進達スヘシ

右訓令ス

明治何年魚市場成績表

何郡(市)何町(村)		何々魚市場	
一金何程	内	買賣取扱總額	
一金何程		手数料收入額	
金何程		市場經常費支出	
金何程		積立金	
金何程		市場創立費償却	
一金何程		市場積立金	
一金何程		仲買人身元金預リ高	
一金何程		仲買人信認積立高	
一何拾何人	内	仲買人現在人數	
何拾人		本年内新ニ加入シタル者	
何拾人		從來營業繼續ノ者	
外ニ何拾人		本年内廢業シタルモノ	
一 本年ニ於ケル市場ノ狀況			
本年ハ何地ニ於テ何々漁多ク其販路ハ何々地方云々或ハ何々運輸ノ便利開通シテ取扱高増加云々			

鑛業

○訓第六九号 (明治三十二年二月十八日)

冊二年訓第一〇
三号ヲ以テ項中
刪除

今般鑛業條例施行細則改正相成候ニ付更ニ取扱手續左ノ通り改正候條該改正細則實施以降ヨリ右ニ從ヒ取扱フベシ

郡市役所

但シ明治二十七年八月十七日訓第三三七号ハ本令實施ノ日ヨリ廢止ス
右訓令ス

取扱手續

郡市役所ニ於テ當廳ヨリ鑛業試掘探掘願及試掘地又ハ鑛區訂正願ニ係ル書類ノ送達ヲ受ケタルトキハ直ニ左記ノ事項ヲ調査シ詳細ナル意見ヲ添ヘ必ス三十日以内ニ上申スヘシ若シ此期日内ニ上申ナキハハ公益上何等障害ナキ者ト見做シ處理スヘキ旨ニ付篤ト注意スヘシ
一 其事業カ公益上障害ノ有無

雜則

○番外 (明治十七年十二月一日)

福岡區 御井御原山本郡
山門郡 企救郡
集産場其他各種ノ名稱ヲ以テ各商店集合販賣市場ヲ設クルモノハ其町内及ヒ隣町ノ承諾書ヲ取リ

出願許可ヲ請クベシ
右布達候事

○訓第三二二号 (明治三十二年一月十九日)

郡役所 市役所

農商務主管ニ属スル團體ニシテ民法上法人タルノ資格ヲ得タルモノハ其登記ノ事項及異動登記ノ事項並登記年月日等ハ其都度報告セシムヘシ
右訓令ス

千九百一十五年

明治三十四年七月十五日印刷
明治三十四年七月二十日發行

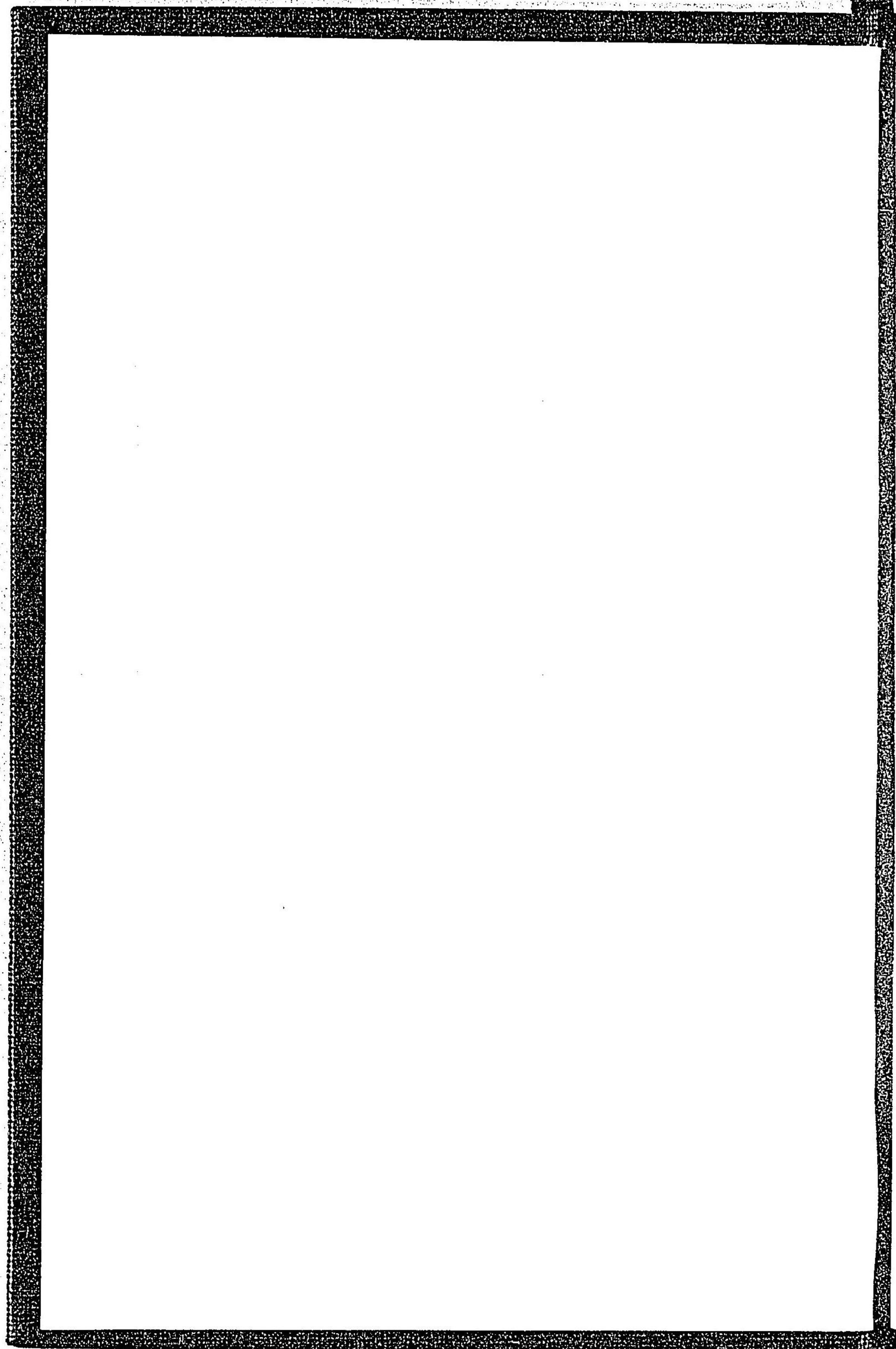
福 岡 縣

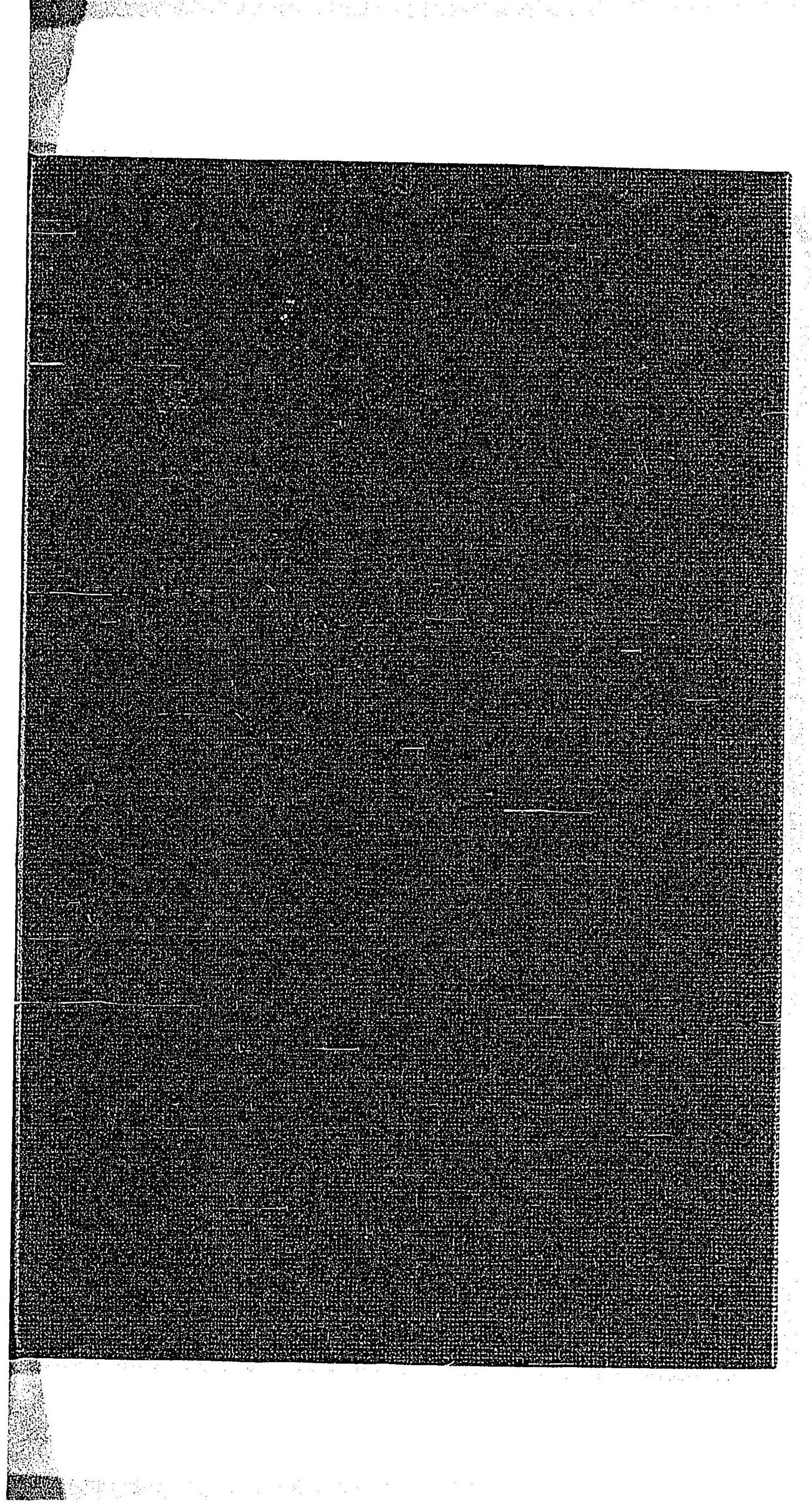
福岡縣福岡市福岡下名島町五十三番地

印刷者 大隈壯太郎

福岡縣福岡市福岡下名島町五十三番地

印刷所 大隈活版印刷所





禁電子式複写

031372-001-3

CZ-1113-114-01

福岡県令達類纂 丁、戊卷

福岡県

M34

BBD-0645



